第7課　聖霊と霊の実

【暗唱聖句】

「これに対して、霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。これらを禁じる掟はありません」ガラテヤ5:22

【今週のテーマ】

聖霊の実は色々ありますがこれらは神の子としての品性を現し、またこれらはすべて神ご自身の品性でもあります。ゆえに聖霊の実は聖霊の力によって可能となる私たちの中のイエス・キリストの命なのです。わたしたちの心がイエス・キリストの心と一つに結びあわされていくとき、ぶどうの実が自然になるように、これらの品性の実も実るようになります。

【日曜日　豊かな実りの条件】

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである」ヨハネ15:5

聖霊の実を結ぶための第一の条件はキリストに結び付いていることです。キリストから離れては何もできないとキリストは言われました。つまり、キリストが望んでおられる標準には達しえないということです。聖霊の実は外部から押し付けられることはありません。わたしたちの内にあるキリストの命の結果です。

つながると訳されているギリシャ語は、「宿る」「幕屋をはる」という意味の言葉です。単にキリストにつながるというよりも、もっと深くキリストと一つになる、同化するという意味があります。キリストと正しくつながっていれば必ず良い実がなります。必ずです。もし実がつかないとするなら、それはキリストとつながっていないという証拠です。季節はずれの時期に、イチジクの木に実がついていないことでキリストは怒ってその木を枯らしてしまわれたことがありました。

「そして、道のかたわらに一本のいちじくの木があるのを見て、そこに行かれたが、ただ葉のほかは何も見当らなかった。そこでその木にむかって、「今から後いつまでも、おまえには実がならないように」と言われた。すると、いちじくの木はたちまち枯れた」マタイ21:19

季節外れなのだから実がつかないのは当たり前です。それなのに枯らしてしまうとは、イエス様は何と短気なのだろうと思ってしまうかもしれませんが、これが伝えるメッセージは、常識的にありえないことであったとしても、キリストにつながっている人は必ず、どんなときでも実がなるのだということです。そして、逆に実がならないということはキリストにつながってはいないので最後は捨てられて、枯れてしまう、つまり滅びていくこという、この二つの意味が込められています。

【月曜日　愛の実】

「これに対して、霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実」ガラテヤ5:22

聖霊の実の中で愛が初めに登場し、最も重要な位置を占めます。この後、様々な聖霊の実が列挙されますが、結局のところそれらはすべて愛に基づくものです。

「それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である」

第一コリント13:13

神は愛であられるので、クリスチャンの最大の徳も愛なのです。ただ、愛を努力によって得ることはできません。愛は観念ではなく、神そのもので実存しているものです。したがってわたしたちが愛の人となるとは、神様と共に一つとなって、内側から神様の愛が沸き上がってくる人となることなのです。では、愛とは具体的にどのようなものなのでしょう。第一コリント13章に愛が列挙されています。

「愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。 13:5 礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。13:6 不義を喜ばず、真実を喜ぶ。13:7 すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える」第一コリント13:4～7

優れた賜物も、この愛がなければ価値がないと聖書は教えます。

【火曜日　喜び、平和、忍耐】

喜び、平和

聖霊の実は、愛に続いて、喜び、平和と続きます。ローマ14:17には「神の国は、飲み食いではなく、聖霊によって与えられる義と平和と喜びなのです」と書かれてあります。神の国とは神の領域、神の支配という意味があるので、神様が領域あるいは支配下の中で生きるとき、そこには平和と喜びがあるということです。そして、神の領域、支配下とはまさに聖霊に満たされた世界なのです。

往々にして人の喜びはしばしばこの世のものにしか目が向けられません。そしてすぐに周囲の状況に左右されてしまいます。しかし、神の国の喜びと平和は周囲のものに影響を受けません。飲み食いを否定するわけではありませんが、飲み食いとて神の国での飲み食いであるなら、それは特別な意味を持つことになることでしょう。平和と喜びに満たされた1日であるように、日々神の国に生きる1日でありたいものです。

「わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。」ヨハネ14:27

キリストはわたいたちに平和を残すと言われました。しかし、その平和はこの世が与えるものとは全く違うと言われました。キリストが下さる平和はこの世を覆います。この世が嵐であったとしてもキリストの平和が覆うとき、嵐は静まります。

忍耐

このような平和な世界に生きるとき、この世の出来事に対して忍耐できるようになります。

「ある人たちは、遅いと考えているようですが、主は約束の実現を遅らせておられるのではありません。そうではなく、一人も滅びないで皆が悔い改めるようにと、あなたがたのために忍耐しておられるのです」第二ペテロ3:9

この聖句を見ると、神ご自身も忍耐しておられるがわかります。その忍耐はわたしたちに対する愛からくるものです。また、終末時代はこの忍耐が試されます。しかし忍耐は試練を克服する力となります。

「あなたは忍耐についてのわたしの言葉を守った。それゆえ、地上に住む人々を試すため全世界に来ようとしている試練の時に、わたしもあなたを守ろう」黙示録3:10

【水曜日　親切、善意、誠実】

「愛は忍耐強い。愛は情け深い」第一コリント13:4

親切

情け深いという言葉は新改訳聖書では親切と訳されています。神様は人間の過ちに対して情け深く扱ってくださいます。もし神様が情け深い方でなかったなら、誰一人生きていくことができなかったことでしょう。神様が親切で情け深い方であるがゆえに、人間は何度も悔い改めるチャンスがあるわけです。同様に、聖霊がわたしたちに与えられるとき他者に対して情け深い人になります。人を批判することができなくなります。もし間違いがあれば、短気を起こしてしかりつけることはなく、優しく諭すことができるようになります。情け深い人は魅力的です。そのような人には安心感があり、多くの人はそばに集まってきます。

善意

「光から、あらゆる善意と正義と真実とが生じるのです」エペソ5:9

善意とは行動となった愛です。この愛の行動も光である主から生じます。自然に沸き上がってくる愛の衝動は、計算ずくの愛の行為とは異なります。

誠実

「私利私欲をまじえず、真心をもって人や物事に対すること」。「人や物事に対する姿勢から真心を感じられる事」、「真面目で偽りがない事」を誠実といいます。聖霊の実としての誠実さは、人に対してばかりでなく、神に対しても誠実です。忠実と言い換えることができるかもしれません。聖霊が働くと神と人とに対して誠実な人間に変えられていきます。

「神にとって重要なのはわたしたちが達成したすばらしい結果ではなく、わたし達が行動した動機なのだ。神は達成した業の素晴らしさよりも、善意や忠実さを重んじられる」

【木曜日　柔和，節制】

柔和

聖霊はわたしたちを柔和で優しい人に作り変えていきます。柔和な人はいつも穏やかで、争いを好みません。人に対して優しく、短気を起こしたり、乱暴したりすることがありません。しかし軟弱ではありません。本当の強さに基づいた柔和さです。もともと柔和と訳されている聖書の言葉は、「中庸な」という意味の言葉です。怒るべき時に怒り、怒るべきでない時には怒らない、強い自己制御能力があります。キリストは「柔和な人々は、幸いである、その人たちは地を受け継ぐ」マタイ5:5と言われましたが、柔和な人は神の豊かな祝福の中に生かされるということです。

節制

「忍耐は力の強さにまさる。自制の力は町を占領するにまさる」箴言16:32

聖霊はわたしたちに生活全般にわたっての自制心を与えてくれます。節制や自制が苦手という人が少なくありません。もし自制心を養いたい、節制する力を養いたいのなら、聖霊に潤され、聖霊の力によってそれを得ることができるでしょう。